


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	




（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。







（判断の要点）

個人消費は、回復しつつある。観光は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	持ち直している	回復しつつある	
観光	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
雇用情勢	持ち直している	緩やかに改善しつつある	

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	5年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を下回っている	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、食料品が堅調に推移していることや、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更などを背景に、各種行事に伴う需要が衣料品・化粧品などにみられることから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗などで好調なことから、前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数、中古車販売台数は、ともに前年を上回っている。家電販売額は、前年を下回っている。このように個人消費は、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 卒入学の返戻ギフト、母の日、父の日セールで衣料品が好調であった。コロナ感染症の5類移行により、化粧品が好調であった。インバウンドも着実に戻ってきていることから、売上高は前年を上回っている。(百貨店・スーパー)
- 全体的な売上は堅調で、来店客数、客単価も前年を上回っている。食料品はプライベートブランドを中心に引き続き堅調。人流回復で各種イベントの機会が増えており、ゴールデンウィーク、母の日、父の日関連の売上も好調。5類移行は人流回復の大きなきっかけになっていると感じており、景況が回復していることが実感としてある。(百貨店・スーパー)
- 前期に続き、観光地周辺店舗では売上が対前年比では大幅に上回っており、住宅地周辺店舗も地元客の動きは活発化。物価高により単価上昇しているが、買い上げ点数の減少などはみられない。(コンビニエンスストア)
- 5類移行によりマスク、解熱剤などは売れ行きが落ちているが、他方、化粧品、UVケア商品などが好調である。人の動きが活発となった影響か、ビタミン剤の売り上げ増加率が顕著となっているなどの動きがみられた。(ドラッグストア)
- 半導体不足の影響は緩和し、自家用、レンタカーともに新車販売は戻りつつある。(自動車販売店)
- 販売状況としては、4-6月で前年と同程度ではあるものの、新車供給増から、車種にもよるが仕入れ価格が下がってきており、多少買い替えの動きが顕在化してきた印象はある。(中古自動車販売店)
- 人流が回復していることから、レジャーなどのサービスに消費マインドが向いているうえ、実質賃金が減っていることは、家電などの耐久消費財への消費を抑制させる大きな要因。(家電量販店)

■ 観光 「緩やかに回復しつつある」

入域観光客数について、国内客は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更や旅行需要喚起策の効果などを背景に増加している。外国客は、緩やかに増加している。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、緩やかに回復しつつある。

- 団体旅行が入るようになってきている。特に社員旅行が好調で、新型コロナウイルスの反動で上がっていると思う。5類に引き下げられて企業は団体旅行をしやすくなったのだと思う。(旅行)
- 夏休みまで予約件数が伸びており、また全国旅行支援のかけこみもあり見通しは良い。(宿泊)
- 海外旅行に行っていた国内客が代替先として沖縄を訪れている。海外への抵抗感がまだあると思われる。(運輸)
- 客層について、ビジネス客や観光客、夫婦からご年配の方まで幅広い。また、スポーツ団体や企業団体客等が増えている。台湾からの団体客も増えていて、先週も数十名を受け入れた。下期も団体客の予約が多い。(宿泊)
- 修学旅行はコロナ前と比べて7-8割は戻っている。キャンセルは出ていない。(運輸)
- インバウンドは少しずつ増えている。以前までは韓国からの観光客が多かったが、今は台湾からの観光客が増えている。いろいろな顧客層が増えたことが4-6月のアップにつながった。(宿泊)
- インバウンドは少しずつ増えているものの、コロナ前と比較すると戻っていない。(宿泊)
- 観光客の購買意欲がアップしている。買い物や体験の数もアップしており、単価が高いものを選ぶ傾向にある印象。地域クーポンの効果もあると思う。(娯楽)
- コロナ禍前と比べて車の保有台数は7割になっているため、単価を上げて補っている。人手不足の影響で稼働率70%でもフル稼働している状態。(レンタカー)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っている。このように雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 5月の有効求人倍率（季節調整値）は1.20倍。昨年8月から10カ月連続の1倍超えとなっており、2005年2月以降、最高値である。正社員有効求人倍率は0.70倍となっており、上昇傾向にある。（公的機関）
- 観光業は夏の繁忙期前に求人が増える傾向にある。（求人誌出版）
- 医療関係は人手不足。賃金アップだけでなく、その他の面でも条件を良くしていかなければ、人材の確保は難しい。介護や飲食業では週休3日にしているところが増えているようである。（求人誌出版）
- 時間給社員（パート）に不足感継続。今期、賃上げを実施したが、見込んでいた数の充足には至っていない。他業態との採用競争は厳しさを増している。（百貨店・スーパー）
- 中途（資格有、経験者）の募集を行っているものの、応募がないため苦戦している。現状は新卒を採用し若い人材を育てることに注力している。（建設）
- 昨年12月から初任給を3万円アップした効果もあり、人手が安定して、面接にも応募が来るようになった。（宿泊）
- 人手不足により、レストランの営業に支障が出ており、受け入れ人数を制限しているため、需要機会を逸失している。（娯楽）
- 低稼働でも売上げが取れるように単価をアップしている。売上げを確保すると従業員の給料を上げられるので職員の退職を回避し、新たな人材も確保できる。（宿泊）

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業では、19.0%の増加見込みとなっている。
- 非製造業では、サービス、情報通信などで減少するものの、金融・保険、電気・ガス・水道などで増加することから、全体では13.4%の増加見込みとなっている。

- 今年度は老朽化による設備更新などを予定しており、増加見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業では、20.6%の増益見込みとなっている。
- 非製造業では、不動産・物品賃貸などで減益となるものの、サービスで増益となることなどから、全体では10.8%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「現状判断は「上昇」超幅が縮小」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。先行きは5年7-9月期は「上昇」超幅が拡大し、5年10-12月期は「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家、分譲で前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（5年度6月累計）は、前年を下回っている。

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

- 生産活動は、観光需要の増加により足下で食料品に好調な動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。